

平成22年における静岡県内の倉庫貨物動向

平成22年(1～12月)の貨物動向は、入庫高が884.7万トンと前年を78.9万トン上回った(9.8%増)。回転率は、月平均72.4と前年を10.2ポイント上回った。月末平均保管残高は、101.6万トンと7.2万トン下回った(6.6%減)

リーマンショック以降、厳しい状況が続いてきたが、2月頃から、県内景気が、新興国や資源国を中心とする海外需要の増加などを背景に持ち直しの動きが広がったことから、これらに関連する倉庫の業況も改善に向かい、また、2月余にわたる連日の猛暑により季節商品が大きく動き、太宗貨物の一角を占める飲料・エアコン等が好調に推移した。

入庫高のトレンドは、増加傾向にあるが、平年並みには至っていない。また、回転率の上昇が示すように貨物の足が速く、保管残高に反映されていない。

さらに、昨今、急激な円高により製造工業の海外移転が加速し、エコカー補助金の終了等に伴う景気の減速等が憂慮され、倉庫業・物流業の経営環境は、依然として厳しい状況が続いている。